



いのちの日便り

2017.11.17
いのち推進
プロジェクト
NO. 7

『心の原点・命の原点』

11月1日（金）に創立38周年記念式典が行われました。記念講演では、本校学校評議員の和田英光さんより、「心の原点・命の原点」という演題でお話しをさせていただきました。

生徒たちは、日々あたりまえに生活できることの幸せ、支えてくれる周りの方への感謝の気持ちを改めて感じていました。



生徒のみなさんの感想より



今日、和田さんの話を聞いて、やっぱり命は大事、生きていることはあたりまえじゃないということを再確認できました。これからも親への感謝を忘れないようにします。

（1年1組 竹石 将悟さん）

和田先生のお話を聞いて、命について考えることができました。私がこの世にいるのは、両親のおかげだと改めて思いました。なので、私を産んでくれたお母さんに「私を産んでくれてありがとう」と感謝の言葉を伝えたいです。（1年1組 渡部 叶望さん）

今、元気に生きているのも「あたりまえ」と思わず、ありがたく今を生きていきたい。そして産んでくれたお母さんに感謝していきたい。（1年5組 安藤 颯斗さん）

「命」とはとても大切なもので、親からつながれたバトンのようなものだった。親だけじゃなく、おじいちゃん、おばあちゃんなどもつないでくれたのだと思う。

（1年5組 佐藤 桃吾さん）

今の生活は昔にたくさんの方が苦勞してつくってきた時代なので、そんな時代で今の生活ができることを幸せに思いながら、毎日一生懸命生きていきたいです。

（2年1組 小関 海音さん）

私は改めて命の大切さに気づくことができました。私達はたった一言で相手を傷つけてしまうことがあります。なので、一人一人が相手を思いやり、学校生活を楽しく過ごすことが大切だと思いました。

（2年1組 加藤 まいさん）

今までは自分の身の回りのことを、同じ角度からしか見えていなかったけど、和田さんの講話を聞いて、世界中にいろんな人がいることを知ったら、視野がとても広がりました。
(2年1組 進藤 光介さん)

和田さんの話を聞いて学んだことは、命の大切さです。今までお母さんのお腹から産まれて、普通に生きているのが当たり前だと思っていました。ですが、話しを聞いて、産まれてくることができなかつたり、病を持っていたりして、僕達のように生きることが難しい人のことを考えると、すごく幸せなことなんだなと改めて思いました。
(2年5組 吉田 優希さん)

私はお話の中で「命の詩」にとっても感動しました。一番心に残っているのは「あたりまえ」です。今、私達がこうして生きているのはあたりまえではないという言葉がとても心に刺さりました。これからは周りの人に感謝の気持ちを伝えて、自分の思い、考えをしっかり持ち、命を大切に一生懸命生きていきたいです。(2年5組 吉田 万桜さん)

今の私達は、ちょっとした言葉で友達を傷つけてしまったり、人の心をよく考えずに行動したりしてしまっていることがたくさんあると思いました。これから世界がどんどん便利になっていく中で、私達が失いかけていた、昔の日本人が大切にしてきた「他者を慮る」ということを、よく考えて生活し、どんな命も大切にしながらその心を未来の人へ受け継がなければならないと感じました。
(3年1組 菅原 さつきさん)



和田さんの話の中には、自分の心を突く言葉がたくさんあった。また、戦争や震災時の話も聞け、いい経験になったと思う。「自尊心」を失いかけている人の心を取り戻すことは、おそらく自分の将来の夢も関わっていると思う。5年後、10年後にはまた違う視点から「命」をみつめたいと感じた。
(3年2組 柳川 瑞希さん)

自分が今、日々身のまわりで起きていることを「あたりまえ」だと思って生活できていることは、自分が思っている何倍も素晴らしく、幸せなことであるということ。

その幸せがあるのは、とてつもなくたくさんの人々が、私に命のバトンを渡してくれたからで、その人々から受け継いだ生きることの幸せを、私達はこれからも大切にしていかなければならないと思った。

(3年2組 渡邊 菜々子さん)



次回の「一中いのちの日」は12月7日(木)です。保護者のみなさんによる読み語りが行われます。学期末も近づいてきました。良い2学期の締めくくりができるよう、一日一日を大切に過ごしたいですね。